



2025年12月期 第1四半期
— 決算補足説明資料 —

株式会社HANATOUR JAPAN
東証グロース市場:6561 2025年5月14日

Contents

目次

01 Executive Summary

02 2025年12月期 第1四半期 決算概況

03 2025年12月期 業績予想

04 今後の重点施策

01 | Executive Summary

02 2025年12月期 第1四半期 決算概況

03 2025年12月期 業績予想

04 今後の重点施策

Executive Summary 実績サマリー

増収増益

1Q過去最高益

1Q過去最高益

売上高

1,745百万円

(前期比: +7.7%)

営業利益

493百万円

(前期比: +9.0%)

経常利益

451百万円

(前期比: +4.3%)

当期純利益

420百万円

(前期比: +5.4%)

利益率28.2%

2025年1-3月 訪日外客数

10,537,300人突破 → 前年比 23.1%増

旅行事業



前年同期比 0.3%増収
9.2%減益

バス事業



前年同期比 0.2%増収
13.8%増益

過去最高益

ホテル事業



前年同期比 18.7%増収
88.6%増益

過去最高益

2025年業績予想 変更なし

売上高

7,200百万円

(前期比: +8.1%)

営業利益

1,840百万円

(前期比: +6.2%)

経常利益

1,750百万円

(前期比: +6.5%)

期末配当予想

37円/株 (配当性向29.8%)

Executive Summary 実績サマリー

旅行事業 前年同期比 0.3%増収 9.2%減益

2024.12. 3 韓国 戒厳令及び大統領弾劾訴追案可決

2024.12.29 チェジュ航空 航空機事故
2025. 1.28 エアプサン 航空機火災事故

2025. 4. 4 韓国大統領 罷免

米国による相互関税の影響から、
2025.2以降 円高・韓国ウォン安傾向

韓国内における経済動向への不安視



戒厳令及び大統領弾劾訴追案可決以降、2025.2前半までは大きな影響はなかったものの、2025.2後半以降、上記の悪条件が重なり、団体パッケージ需要が伸び悩む

韓国団体パッケージの伸び悩み、一方でFIT（個人旅行者）、東南アジア、欧州地域の取扱高が増加したが販売管理費の増加を吸収しきれず減益

韓国団体パッケージ需要 2Q以降下期へかけて回復傾向

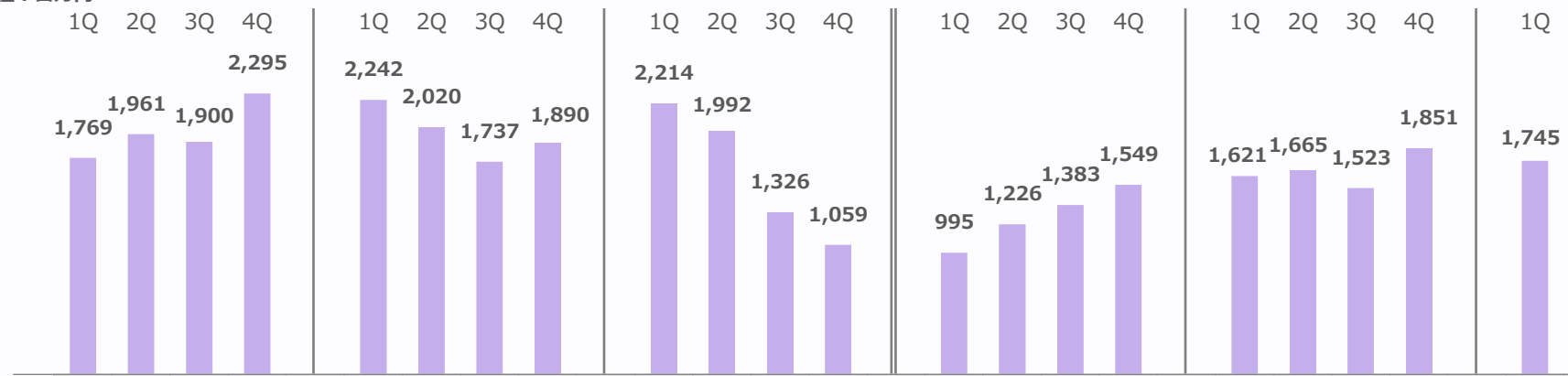
- 01 Executive Summary
- 02 2025年12月期 第1四半期 決算概況
- 03 2025年12月期 業績予想
- 04 今後の重点施策

Quarterly Trends in Revenue and Profit 売上高 営業利益 四半期推移

2025年12月期1Q 営業利益過去最高

売上高

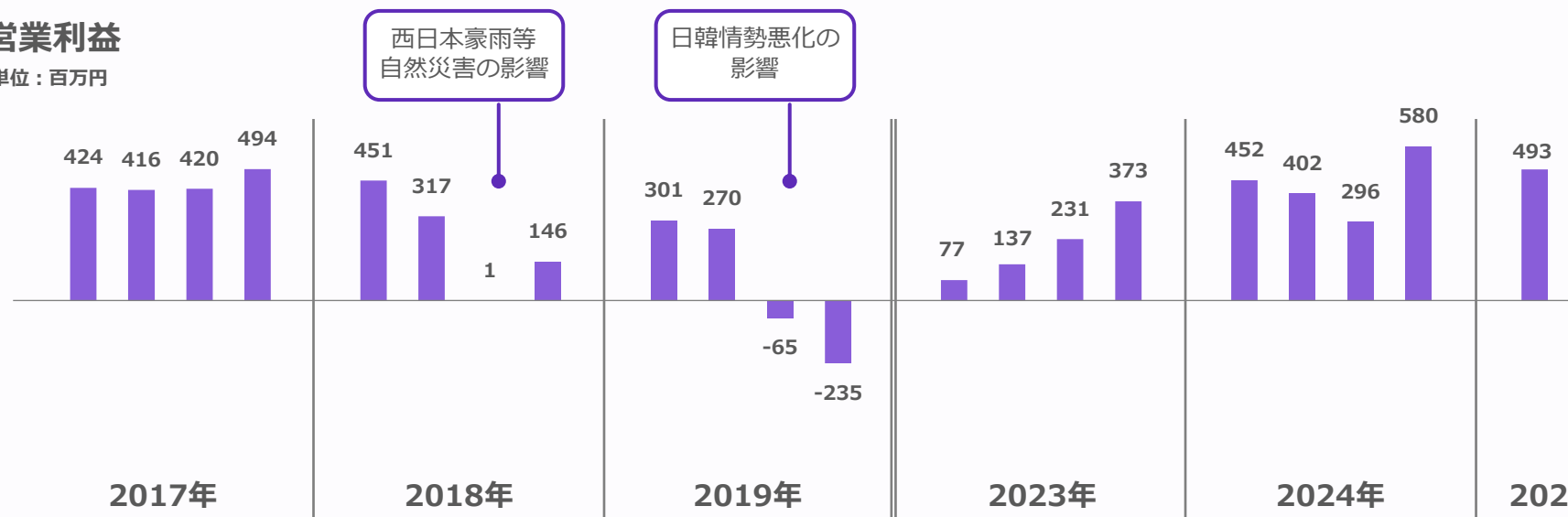
単位：百万円



コロナ前
2018年対比
77.9%

営業利益

単位：百万円



2025年 1Q
営業利益予想 進捗率
26.8%

Quarterly Performance Trends 売上高 営業利益 四半期推移

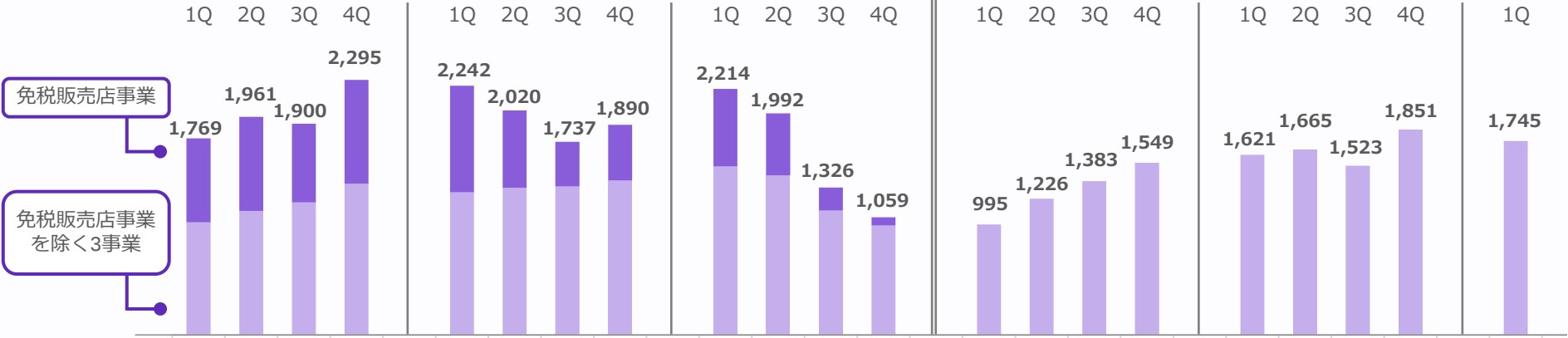
連結売上高 四半期推移

売上高

単位：百万円

旅行、バス、ホテル、免税販売店事業の4事業

免税販売店事業廃止 → 旅行、バス、ホテルの3事業

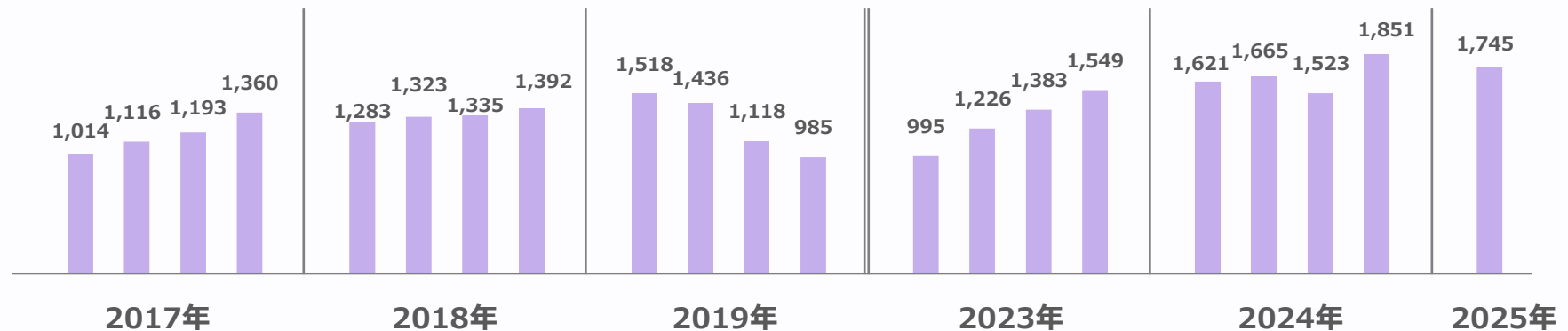


売上高

単位：百万円

免税販売店事業を除く

免税販売店事業を除く3事業の推移 → コロナ禍前を超える成長



Quarterly Performance Trends 売上高 営業利益 四半期推移

連結営業利益 四半期推移

旅行、バス、ホテル、免税販売店事業の4事業

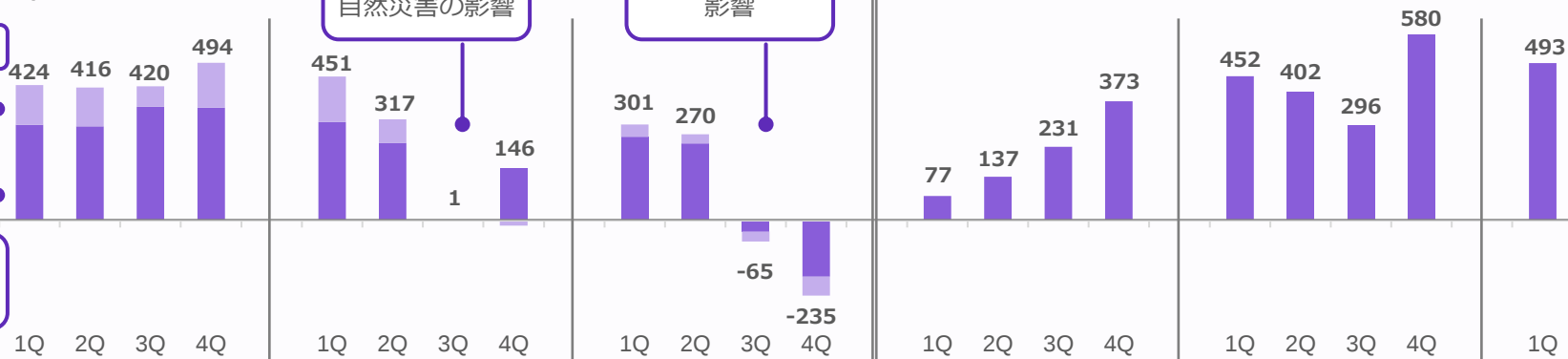
免税販売店事業廃止 → 旅行、バス、ホテルの3事業

営業利益

単位：百万円

免税販売店事業

免税販売店事業を除く3事業



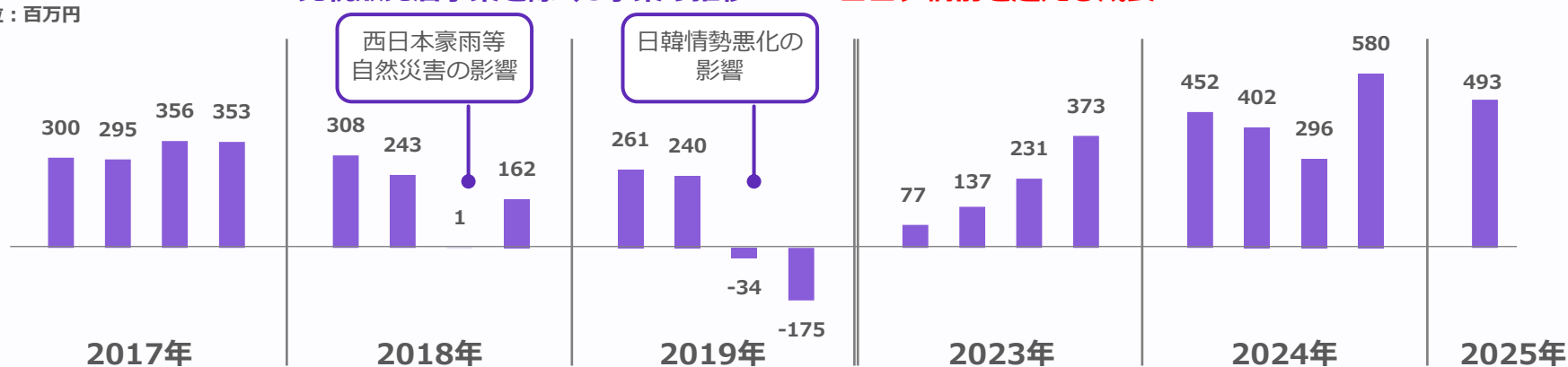
免税販売店事業を除く

営業利益

単位：百万円

免税販売店事業を除く3事業の推移

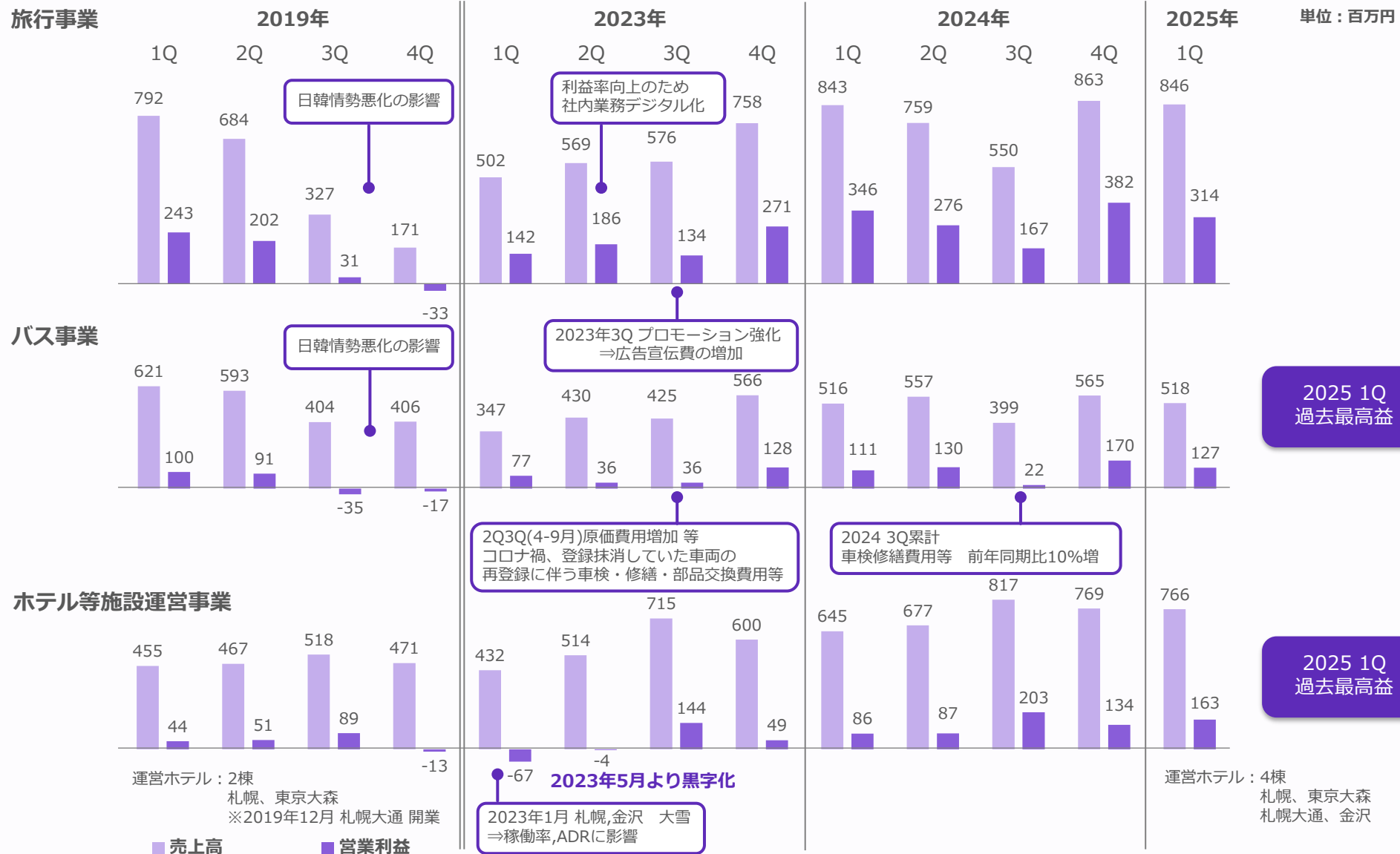
コロナ禍前を超える成長



Quarterly Segment Revenue and Profit Trends

セグメント別 売上高 セグメント利益 四半期推移

2025年12月期1Q バス事業、ホテル事業 過去最高益



Profit and Loss Statement 2025年12月期 損益計算書

前年比売上高7.7%増、営業利益9.0%、営業利益率0.3ポイント増
各事業 稼働増加 変動経費 増加 各事業にて給与ベースアップ実施

単位：百万円（百万円未満切捨て）、％

	2024/12 1Q	構成比	2025/12 1Q	前期比		構成比	通期予想に 対する進捗率
				増減	％		
売上高	1,621	100.0	1,745	124	7.7	100.0	24.2
売上原価	362	22.3	349	△ 13	△ 3.7	20.0	-
売上総利益	1,258	77.6	1,396	137	10.9	80.0	-
販管費	806	49.7	903	96	12.0	51.8	-
うち人件費	275	17.0	301	25	9.5	17.2	-
営業利益	452	27.9	493	40	9.0	28.2	26.8
経常利益	432	26.7	451	18	4.3	25.8	25.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	398	24.6	420	21	5.4	24.1	26.9

1株当たり当期純利益	31.75円	33.47円
自己資本	2,248	3,519

Profit and Loss Statement by Segment 2025年12月期 セグメント別 損益計算書

単位：百万円（百万円未満切捨て）、％

				2024/12	2025/12	前期比		構成比
				1Q	1Q	増減	％	
旅行	売上高	利益	利益率	843	846	2	0.3	48.5
				346	314	△ 31	△ 9.2	63.7
				41.1	37.2	-	-	-
バス	売上高	利益	利益率	516	518	1	0.2	29.7
				111	127	15	13.8	25.8
				21.6	24.5	-	-	-
ホテル等	売上高	利益	利益率	645	766	120	18.7	43.9
				86	163	76	88.6	33.1
				13.4	21.3	-	-	-
その他	売上高	利益	利益率	14	11	△ 3	△ 22.1	0.6
				3	△ 1	△ 3	-	△ 0.2
				22.8	-	-	-	-
小計	売上高	利益	利益率	2,021	2,143	121	6.0	122.8
				548	605	56	10.5	122.6
				27.1	28.2	-	-	-
調整等	売上高	利益	利益率	△ 400	△ 397	2	△ 0.8	△ 22.8
				△ 96	△ 111	△ 15	15.7	△ 22.6
				-	-	-	-	-
合計	売上高	利益	利益率	1,621	1,745	124	7.7	100.0
				452	493	40	9.0	100.0
				27.9	28.2	-	-	-

旅行事業

FIT(個人旅行者)、東南アジア、欧州などの団体パッケージは前年を上回ったものの、1Qハイシーズンの韓国団体パッケージの伸び悩み、韓国ウォン安の影響から、売上高の円換差額が下振れしたこと等により、対前年9.2%の減益となった。

バス事業

コロナ禍以降車両修繕が一巡したことなど、原価の抑制により収益率が向上。

ホテル等施設運営事業

Tマークシティホテル札幌、東京大森、札幌大通のADR(客室平均単価)、稼働率がともに前年を上回り、インバウンド、国内需要ともに堅調に推移。
一方、Tマークシティホテル金沢においては能登半島地震からの観光需要の回復が市場全体で遅れており、業績は伸び悩む結果となった。

Cost Trends 2025年12月期 コスト推移

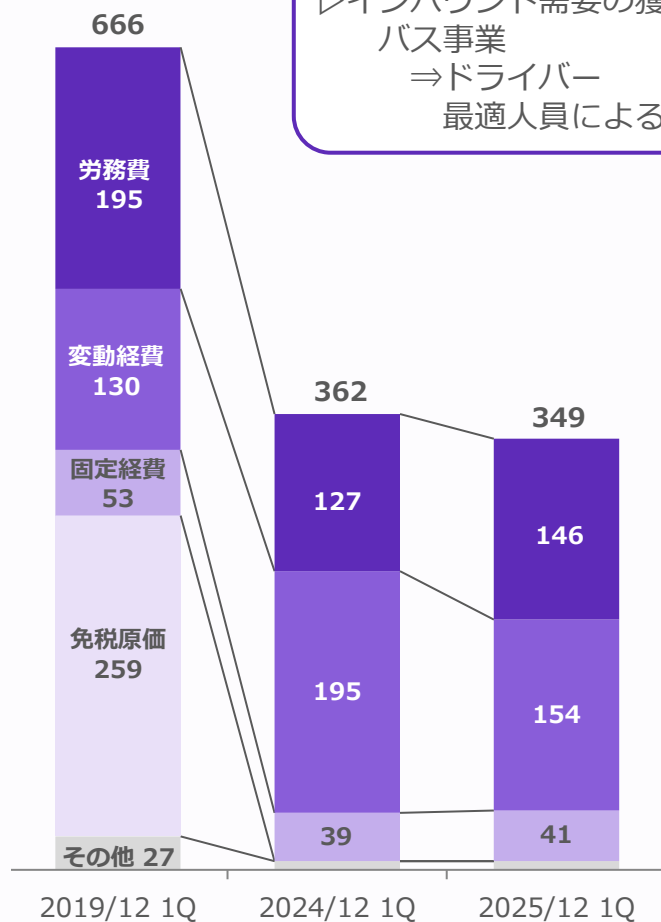
アフターコロナ 最適人員維持 人件費・固定経費の抑制

売上原価 3期比較

単位：百万円（百万円未満切捨て）

今後の重点施策

- ▷インバウンド需要の獲得に向け
バス事業
⇒ドライバー
最適人員による生産性向上

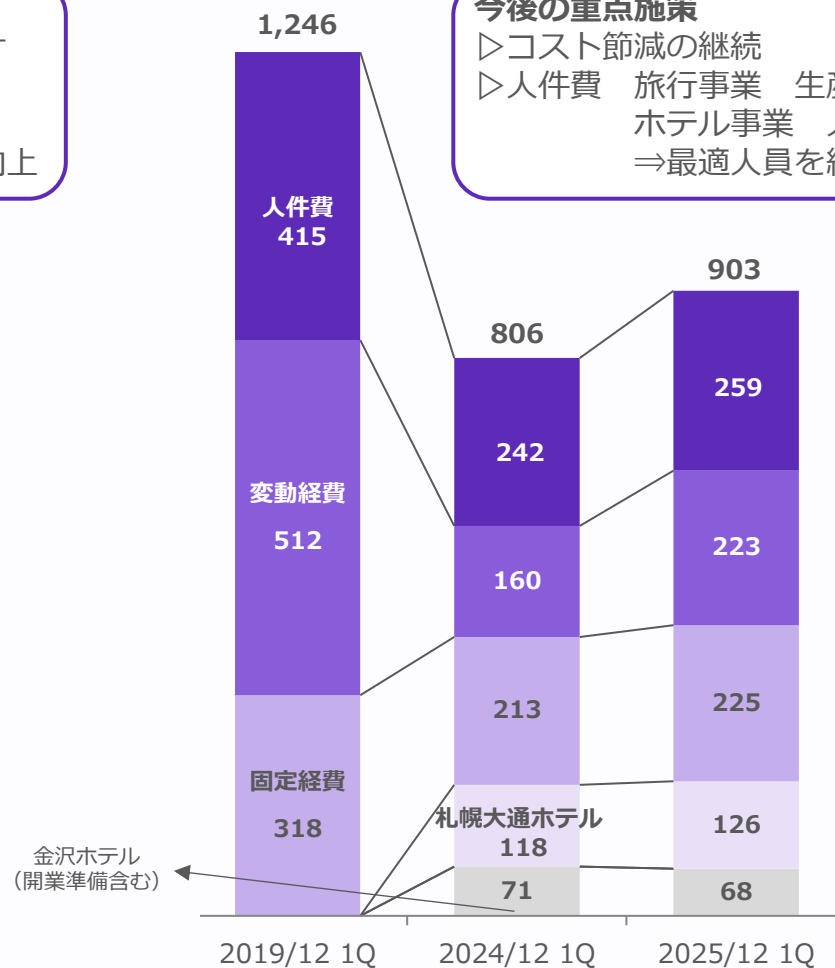


販管費 3期比較

単位：百万円（百万円未満切捨て）

今後の重点施策

- ▷コスト節減の継続
- ▷人件費 旅行事業 生産性向上
ホテル事業 人員採用
⇒最適人員を維持した増員



International Scheduled Flights Status 国際定期便の状況

主要空港 国際線便数 増加 中国便 地方空港 回復遅延



2025年 夏ダイヤ

エリア	空港	韓国	中国	香港	台湾	タイ	その他
北海道	新千歳	○	○	○	○	○	シンガポール、マレーシア
	旭川	○			○		
	函館				○		
東北	青森	○			○		
	花巻				○		
	秋田				○		
	仙台	○	○	○	○		
	福島				○		
	新潟	○	○		○		
関東	成田	○	○	○	○	○	世界各国
	羽田	○	○	○	○	○	世界各国
	茨城	○	○		○		
東海	静岡	○		○			
	中部	○	○	○	○	○	東南アジア、米国、フィンランド
北陸	富山		○				
	小松	○	○	○	○		
近畿	関西	○	○	○	○	○	世界各国
中国	岡山	○	○		○		
	広島	○	○	○	○		ベトナム
	米子	○		○			
四国	高松	○	○	○	○		
	松山	○			○		
	山口						
九州	福岡	○	○	○	○	○	東南アジア、ハワイ
	北九州	○					
	長崎	○	○				
	佐賀	○	○		○		
	宮崎	○			○		
	鹿児島	○	○	○	○		
	大分	○			○		
	熊本	○		○	○		
沖縄	那覇	○	○	○	○	○	シンガポール
	下地島	○					
	新石垣	○		○			

⇒ 主要空港

⇒ 復便

2025年 夏ダイヤ 便数

(単位：便/週)

	韓国	中国	香港	台湾	タイ
全体	1,286	1,349	516	756	242
主要空港	1,150	1,311	470	650	242
地方空港	136	38	46	106	0

国際線便数回復割合

対2024年 夏ダイヤ

	韓国	中国	香港	台湾	タイ
全体	106.2%	159.4%	131.5%	127.3%	127.0%
主要空港	102.4%	159.6%	124.5%	125.5%	127.0%
地方空港	156.3%	152.0%	306.7%	139.5%	-

対2019年 夏ダイヤ

	韓国	中国	香港	台湾	タイ
全体	100.6%	129.1%	124.5%	119.1%	100.2%
主要空港	100.2%	134.2%	123.5%	119.2%	100.2%
地方空港	104.6%	55.9%	135.3%	119.1%	-

出典：国土交通省「国際線就航状況」をもとに当社作成。

- 01 Executive Summary
- 02 2025年12月期 第1四半期 決算概況
- 03 | 2025年12月期 業績予想
- 04 今後の重点施策

Performance Forecast 2025年12月期 業績予想

2025年12月期 前期比8.1%増収 6.2%営業増益予想 配当予想 37円／株

➡ 通期業績予想、配当予想 据え置き

単位：百万円（百万円未満切捨て）、％

	2024/12	構成比	2025/12 予想	前期比		構成比
				増減	％	
売上高	6,662	100.0	7,200	537	8.1	100.0
営業利益	1,732	26.0	1,840	107	6.2	25.6
経常利益	1,643	24.7	1,750	106	6.5	24.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,627	24.4	1,560	△ 67	△ 4.1	21.7
1株当たり当期純利益	129.6円		124.24円			
1株当たり配当金	30.00円		37.00円			
配当性向	23.1		29.8			

Performance Forecast 2025年12月期 業績予想

売上、利益ともに進捗は順調

実績

通期業績予想

 = 進捗率

売上高 **1,745**
百万円

24.2%

7,200
百万円

営業利益 **493**
百万円

26.8%

1,840
百万円

旅行事業

1Qは為替の影響や、韓国の団体パッケージが伸び悩んだが、2Q以降、FIT(個人旅行者)を中心に巻返しを図る。

経常利益 **451**
百万円

25.8%

1,750
百万円

バス事業

国内需要、グループ外需要の取込の拡大に伴った稼働増により、トップラインの向上を目指す。

当期純利益 **420**
百万円

26.9%

1,560
百万円

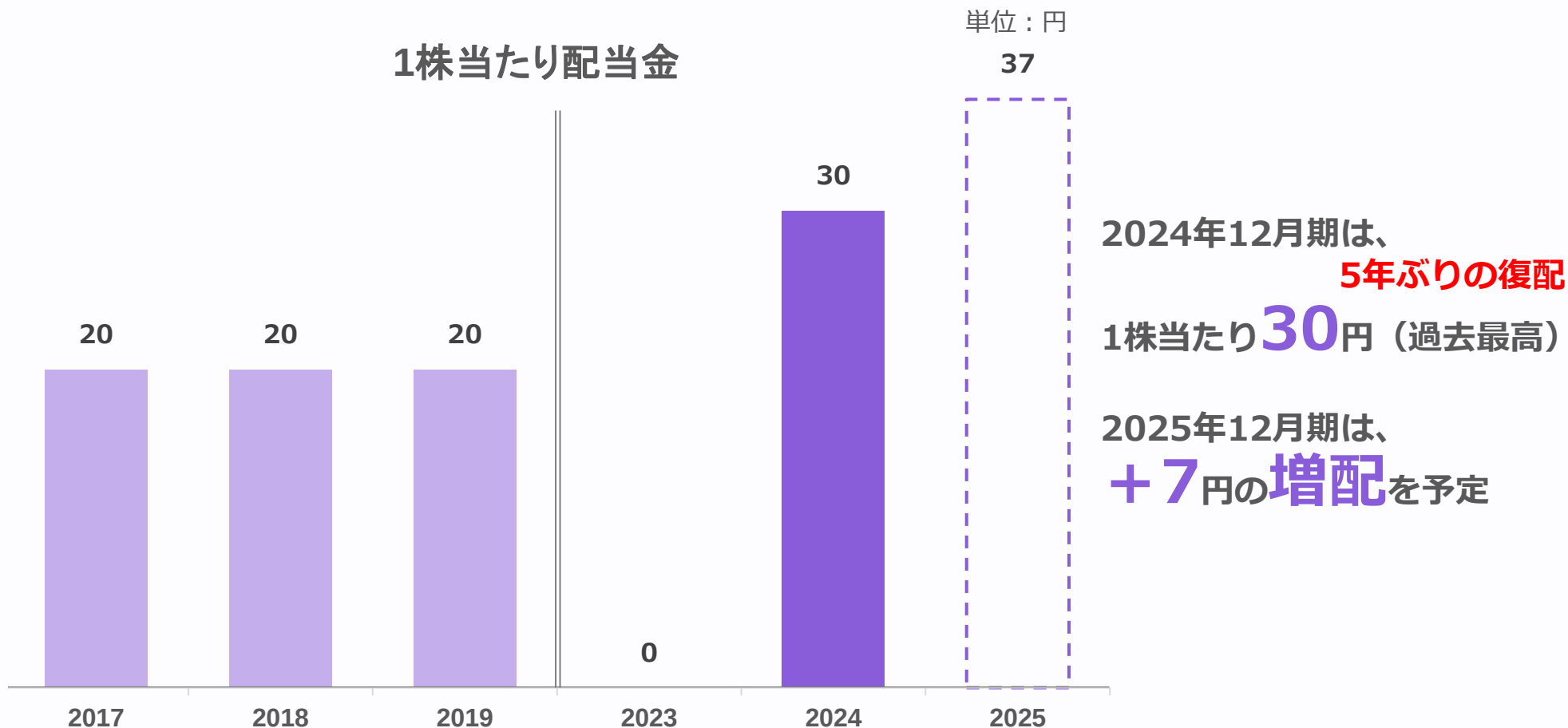
ホテル等施設運営事業

継続してレベニューマネジメント、営業強化により国内外のFIT(個人旅行者)、団体需要の取込の拡大を目指す。

Performance Forecast 2025年12月期 業績予想

株主還元

持続的な成長を実現し、事業成長投資－株主還元 のバランスを考慮し、安定配当を目指してまいります。



- 01 Executive Summary
- 02 2025年12月期 第1四半期 決算概況
- 03 2025年12月期 業績予想
- 04 今後の重点施策

Key Initiatives Going Forward 2025年12月期 今後の重点施策

営業基盤の強化

旅行事業



経営効率化

- ▶ 営業拠点の拡張
東京本社・九州営業所・北海道営業所
韓国営業所・インドネシア事務所
⇒ 国内外新拠点の開設検討
- ▶ 人員最適化
及び業務デジタル化による生産性向上

需要獲得・事業拡大への取組

- ▶ インバウンド需要獲得に向けた取組み
 - ホテル、旅ナカ商材等 仕入強化
 - 海外AGTへの営業強化
- ▶ **FIT（個人旅行者）向け**
旅行企画・販売支援システムを開発中

バス事業



- ▶ 営業拠点：東京・大阪・北海道・福岡
⇒ 人員最適化
及び業務デジタル化による生産性向上
- ▶ 一部の旧型車両⇒新車両へ入替

- ▶ 国内AGTへの営業強化
- ▶ 国際便クルーなど送迎事業の拡大
- ▶ 各事業所 ドライバー最適配置

ホテル等施設 運営事業



- ▶ 運営ホテル
「Tマークシティホテル」ブランド 4棟
 - レビューマネジメントによるADR・稼働率向上
 - 人員最適化による生産性向上
 - ランニングコストの見直し

- ▶ 国内・インバウンド・FIT需要獲得に向けた取組み
 - 国内旅行エージェント・OTAへの営業強化
 - 海外旅行エージェントへの営業強化
 - グローバルOTA対応強化
- ▶ 新規ホテル開業の検討

財務体質の改善

生産性 利益率の向上
余剰資金 → 早期弁済へ

- ▶ 資産効率、資本効率の向上
- ▶ 安定配当の実施(株主還元の充実)

Disclaimer 免責事項

- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

【お問い合わせ先】

株式会社HANATOUR JAPAN

経営管理部

TEL 03-6629-4755

ホームページ <https://www.hanatourjapan.jp/>